

神子元島灯台と神子元島に関する“あるあるネタ”集めてみました。

① 灯台は太陽光発電で点灯している。

灯台は元宿舎の屋根のソーラーパネルで日中発電した電気だけで夜に点灯しています。電気は安定供給するために蓄電池を利用しています。また、爪木埼灯台の他、小型の灯台はLED化されています。(写真は元宿舎の屋根に設置されたソーラーパネル)



② 灯台は石油で点灯していた。

当初、灯台は石油燃料を使用し点灯していました。そのため、毎晩、照明装置のあるライトルームには灯台守が常駐していました。その後、ガス燃料を経て、最終的には現在の電気に至ります。(写真は燃料が置かれていた部屋)



③ 灯台は攻撃を受けて穴が空いていた。

第2次世界大戦中、アメリカ軍の攻撃を受け、灯台は大きな被害を受けました。今では修理され、外からはわかりませんが、中に入ると攻撃を受けた跡が確認できます。また、破壊された灯台レンズは今でも島に散在しています。(写真は当時のもの)



画像提供：下田海上保安部

④ 灯台には長さ15mの木柱が立っている。

建設当初は接いだ木柱で灯台のレンズを支えていました。現在では補強のため周囲を鉄筋コンクリートで覆い、木柱を埋め殺しにしていますが、今も灯台の真ん中には建設当初の木柱が立っています。(写真は現在の灯台柱)



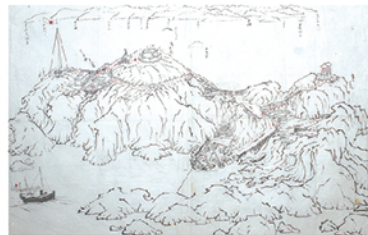
⑤ 島には人が住んでいた。

点灯開始から数年間は、外国人の灯台守と共に日本人灯台守が家族と島に暮らしていました。その後は日本人だけとなり、昭和初期には家族は武方浜に移り、昭和50年まで交代で灯台守がこの宿舎に住んでいました。(写真は灯台守の宿舎)



⑥ 灯台はもともとは白かった。

灯台の色が白いと、空に隠れてしまっ見えづらかったため、明治16年8月に白と黒の縞模様塗り替えました。また、平成になって灯台は炭素繊維などを使った耐震補強工事で伊豆石の壁を厚く覆っています。(写真は現在の灯台)



画像提供：菊地義典

下田出身、神子元島灯台守山岸政房氏の絵図を発見。

山岸政房氏は神子元島灯台が竣工した直後の明治4年に下田町から志願して神子元島灯台守の見習いとして採用され、神子元島灯台には2度、南伊豆町の石廊崎灯台他10カ所の灯台に勤務しました。政房氏は元々絵心がある人で、神子元島灯台の絵図の他、他の灯台絵図、下田町、伊豆七島などの絵図も描いています。

政房氏は灯台守を辞めた後、下田に戻り、下田銀行(現在の静岡銀行下田支店)の支配人を長く務めました。

歌人・若山牧水は神子元島灯台に滞在していました。

大正2年(1913)10月、歌人・若山牧水は早稲田大学時代の友人で灯台守となった古賀安治に会いに灯台通いの船で神子元島に渡っています。船は水や米、その他、灯台守たちの必需品を運ぶために下田から一週間おきに出ていました。若山牧水は神子元島に次の船が来るまで滞り、島の日々は随筆集にまとめられています。



二人対面した部屋。現在は電池室

神子元島灯台に関連する下田まち遺産

古賀安治を訪ねるために来島した若山牧水は、その時の深い感動を「秋風の歌」と題する短歌集で、80首ほど詠みました。そのうちの1首を刻んだ歌碑が、神子元島の良く見える須崎の恵比寿島と吉佐美大浜の丘に建設されています(本誌9ページ参照)。また、吉佐美大浜の歌碑には近藤芳美の歌も刻まれています。

友が守る灯台はあはれ
わだなかの
蟹めく岩に白く立ち居り 若山牧水



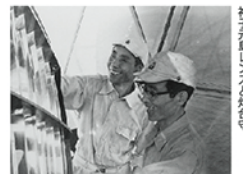
〔吉佐美大浜にある神子元島灯台歌碑〕
〔本島、吉佐美大浜にある若山牧水歌碑〕



【期間限定開催】

下田開港160周年記念事業 灯台記念日特別企画展「神子元島灯台と日本の灯台」

日時：平成26年11月2日(日)～同年11月9日(日) 9:00～16:00
場所：道の駅開国下田みなと 特別展示室(入場無料)
神子元島灯台の映像や、建設当時の絵図などの史料を展示。灯台・巡視船・航空機のペーパークラフトの配布も行います。



神子元島レンズと灯台守